

平成 29 年度 愛知県神社庁長崎慰霊祭報告【神社新報】



東山海軍墓地



艦船碑

県神社庁（小串和夫庁長）は7月12日、長崎県佐世保市にある東山海軍墓地にて戦歿者慰霊祭を斎行し、関係者194人が参列しました。

県神社庁では毎年、戦歿者の慰霊と世界の平和を祈る旅をおこない、国内外の戦地で慰霊祭を斎行。今年は11日から13日までの日程で「愛知県神社庁佐世保東山海軍墓地慰霊祭の旅」を開催し、日本国内四鎮守府の一つであり、西海の守りとして数多くの軍艦が母港とした佐世保軍港を望む東山海軍墓地の「海の防人の碑」前にて慰霊祭を執り行いました。祭典は、来賓の池田剛康（いけだ たけやす）長崎県神社庁長並びに佐世保海軍墓地保存会より都甲泰臣（とごう やすおみ）会長他2名の参列のもと、三浦正典教化常任委員長が斎主を務めて斎行。祭壇には、県内から持参した日本酒や水、菓子や煙草などの神饌が供えられ、神尾俊治県神社総代会副会長による慰霊の言葉の奉読に続き、名古屋市中区・愛知県護國神社（高羽伸浩宮司）の舞姫が「みたま慰めの舞」を奉奏しました。



神尾総代会副会長慰霊の詞



みたま慰めの舞

続いて参列者全員が、持参した榊で調製された玉串を奉って拝礼をおこない、佐世保鎮守府管内の英霊17万6千余名とともに、今次の大戦において戦没された全ての御霊の

平安を祈念。祭典後には小串庁長並びに池田長崎県神社庁長が挨拶しました。

明治22年7月1日に佐世保鎮守府が開府されてより約130年の歴史の中で、佐世保港を母港として出征した艦船は枚挙に暇ない。高爽の墓地内には艦名の記された数多くの慰霊碑が立ち並び、同様に散華された御英霊の名前が刻まれ、遙か眼下の佐世保港を望んでいます。式中、慰霊の誠を捧げんと宣われた祭詞の終わるや、思いがけず港よりの汽笛二声が響き渡った様は、英霊との感応を抱くに充分であり、厳粛な内に祭典が執り進められました。



祭員拝礼



小串庁長挨拶



池田長崎県
神社庁長挨拶